

平成 29 年度第 3 回広島県公立大学法人評価委員会議事要旨

- 1 日 時 平成 30 年 3 月 19 日（月）14:00～15:40
- 2 場 所 広島県庁本館 1 階 102 会議室
- 3 出席委員 金安委員長，曾余田委員，山川委員
- 4 議 題 (1)第 2 期中期計画の進捗状況について
(2)第 3 期中期目標の策定について
(3)業務方法書の変更について
(4)その他
・地方独立行政法人法の改正について
- 5 担当部署 広島県環境県民局大学教育振興担当大学振興グループ
電話(082)513-2752
- 6 会議の内容

○：委員発言 ◎：県発言

<第 2 期中期計画の進捗状況について欠席委員からの意見>

- （MBA は）課程教育でないと，社会人の教育ニーズを満たすことは難しい。しっかりとした課程（カリキュラム）が組まれていることは評価できる。
- 作業療法士の合格率が低かった点，看護学科の養護教諭の免許取得要件が誤って学生に周知されていた点，などのマイナスのニュースは大学のブランド力が落ちるので内部のマネジメントをしっかり行う必要がある。
- 「課題探究型地域創生人材」という人材像を打ち出しておきながら，企業に行ったアンケートでは，学生のチャレンジスピリットやリーダーシップが企業に評価されていない結果となっている。就活の前段階から力をつけておく必要があるのではないか。
- MBA については，今年，修了生を送り出すことができ，社会での活躍が期待される。修了生のネットワークについても広がっていくことを期待する。
- 大学の地域貢献において，「知の拠点」としての地域連携センターの取り組みは評価しているが，もう少し，地域とのつながりを外部に明確に打ち出せたらよいのではないか。
- 宮島学のような地域ビジネスに大学・学生が貢献していくことが大学のブランド力を高めることになるので，今後の取り組みに一層期待する。

<第 2 期中期計画の進捗状況について>

- TOEIC の点数が目標達成困難となっているが，どのような対策をとっていくのかをしっかりと発信してほしい。
- ◎ 中期計画の最終年まであと 1 年あるので，全学の取り組みとして行っていく。eラーニングの積極的な利用促進に努めると大学から聞いている。
- ◎ TOEIC 得点増を目指すための講座の開催，関連図書などを各図書館に整備する取り組みを考えている。これらの取り組みは，第 3 期中期計画でも取り組んでいくと聞いている。
- ◎ 中国語検定 2 級レベル到達者についての目標は，目標設定が適正であったか反省すべき点がある。

ある。情報処理技術者試験については、制度上の変更により合格率が大きく下がったが、今後は合格者を増やすべく取り組みを強化する。

- ◎ 庄原キャンパスの生命環境学科、中級バイオ、上級バイオ技術者試験については、数値目標を概ね達成しているため、引き続き受験対策を進めていく。
- ◎ 作業療法士の国家試験の合格率が悪かった点については、原因について検証するとともに、教員間での情報共有を行っている。外部講師の招聘や個別指導などのサポートを行っている。
- アクティブラーニングの成果をどのように把握されているか。
- ◎ 教員の養成と学生の基礎教養等の修得に加え、公立高校と連携し、学外で活動する生徒の支援を行っている。公立大学のつどい、研究発表の場で、アクティブラーニングの手法を披露している。
- 学生にどのような変容があるのか把握しているのか。
- ◎ そこは、把握できていない。
- 多様な収入源の確保について、公開講座があがっているが、収入が財務に与える影響は小さいと思う。収入源といえるのか。
- ◎ 公開講座の収入は人件費や教材費を入れると黒字とは言えない。受講者は増えているので、今後は収入増につなげていきたい。
- MBAの学生が増えているのはいいこと。ネットワークづくりをしっかりとやってほしい。3つのキャンパスの卒業生もネットワーク化すれば、寄付金集めの際によき応援団となる。ネットワークづくりのしくみを構築してはどうか。
- ◎ MBAの同窓会も2月10日付でHMBSコミュニティという同窓会組織が立ち上がった。学部生の同窓会組織もできればよいと思っている。
- MBAの卒業生が、卒業後どう変容したか、社会に与えた影響などを調査する仕組みは考えているのか。アクティブラーニングについても、同様な仕組みが必要ではないか。
- 研究倫理教育について、論文を提出する際には、研究倫理教育を受けていないと論文が出せない。教職員や院生だけでなく、学部生に対しても倫理教育しないといけない。
- ◎ 研究倫理教育については、取り組みを見守っていきたいと思う。広島大学の例を参考にさせてもらいながら、学部生にも課していく方法で検討していきたい。
- ◎ アクティブラーニングの評価自体は踏み込んでやっていない。平成27年度から基礎教養系の科目が変わったので、カリキュラムの十分な検証をした後に、結果を持ち寄って評価委員会で議論していただくことになる。
- ◎ 学生の行動変容については、県大生が就職した企業に対してアンケート調査を実施している。県大生は、まじめだが積極性やリーダーシップがないとの評価が出ている。引き続き、アンケートを実施して検証していく。

<第3期中期目標の策定について>

- 地域に愛着を持つ「課題探究型地域創成人材」の定義はどのようなものか。
- ◎ 具体的には、地域の課題を発見し、自ら解決していくための実践力を身に付ける人材を育成するということである。地域に出ることで実践力が身に付き、ひいては地域を超えて国内外でも通用する人材を育てていくことを意図している。「人材」とは何かという具体的な内容については、今後詰めていきたい。
- 人材の定義を具体的に明示することは重要である。

- 課題探究型地域人材とMBAで求める経営人材との違いは何か。
- ◎ 課題探究型地域創成人材というのは、自ら課題を探究するという積極性を身に付けてそれを自分で解決していこうとする行動特性である。学部生と院生では求められるレベルが違うが、これは、MBAの修了生にも求められるものなので、課題探究型地域創成人材の一形態として位置付けている。
- MBAの学生は、どのような職種の人がどのような期待を持って入学しているのか。求めている期待と課題探究型地域創成人材の育成、経営人材の育成とは合致しているのか。
- ◎ MBAに関していうと、アメリカで生まれた概念だが、県大の場合は、地域において中小企業を活性化させるための人材を育てていくことを想定している。
- MBAについては、医療関係者に携わっている学生もいるのか。
- ◎ 医療関係をはじめ、多方面からの入学者がいる。医療現場を経営的な観点から改善する課題を持っている人や農業の分野でも経営管理が必要との課題意識を持っている人もいる。彼らを経営人材としていかに育てていくかが重要となる。
- 高大接続というが、何をイメージすればよいのか。
- ◎ これから変わる大学入試制度への対応がある。次に、高等学校で行われている実践的な教育を3年間実施したとして、大学に入ってその成果が役に立たないということはあるとはならない。高校教育の変革が大学教育の内容と一致している必要がある。
- 県教委の学びの変革が3年目で仕上げの年となり、多くの学校が課題発見学習を行い地域に提案を行うなどしているが、一方で時間がかかり今まで身に付けていた学力に悪影響で出ているのではないかという懸念もある。両者は対立するものではないが、高校も不安を感じていると聞いたことがある。大学の方から、課題発見学習の有用性について発信していく重要な時期にきているのではないか。
- ◎ 高校での学びの変革を、大学においても引き継ぐ方向で実施していくという趣旨で書いている。大学も県教委とコミュニケーションを取り始めているところである。
- フィールドワークで学んだ人と、経験のない人では、大きな差が出てくるのではないか。
- ◎ 小中高には、フィールドワークができる先生が少ないので、経験値が不足している。県大としてどう手助けしていくかが課題である。フィールドワークを経験して入学してきた学生の力をさらに伸ばすことも大学としてやっていきたい。
- 県立広島大学だからこそ、この課題（課題発見学習）に取り組むということ、未来チャレンジビジョンに結び付けることも大切だと思う。
- 一般教養的な側面があまり感じられないという漠然とした印象を持っているが、一般教養の位置付けはどうなっているのか。
- ◎ 一般教養については、幅広い教養を身に付けるべく中期目標に入れている。平成26年度から3、4年次で専門分野に加えて教養分野も入れて、幅広い分野を学習させるようにしている。
- カリキュラムを変更して、アクティブラーニングを導入したと思うが、カリキュラムを変更したことをもう少し、盛り込む必要がある。

<業務方法書の変更について>

- 第3条の日常業務の遂行に係るモニタリングを行うための必要な規程と、12条の反社会的勢力への対応の在り方についての方針の2点が未整備となっているが、検討を進めてほしい。
- 内部統制という言葉は以前から使っているのか。

- ◎ 以前から使っている。
- 今まで規定されていなかったことを書き込めということか。
- ◎ ほとんどの項目は、すでに書き込んであるので、新たに記述が必要なのは第3条と第12条の2項目だけである。

<地方独立行政法人法の改正について> 意見なし。

<その他>

- 1年間委員をやってみて、宣伝効果は大きいということを実感した。
- 県立広島大学の地域資源を生かすという取り組みにはかなわないと感じる。むしろ、堅実な学生気質を強みにしていけばよいのではないかと思うし、中期目標にも盛り込んでもよいのではないか。
- 宮島学は、小中高で教えてもニーズはあると思う。そういう強みをこれからも発信してほしい。
- 私も「山形学」のプログラムづくりに携わったことがあるが、地域の強みを十分に活用して学問としてPRしていけばよいと思う。

7 会議の資料名一覧

【配付資料】

- 資料1 第二期中期計画（平成25～30年度）取組状況点検表
- 資料2 公立大学法人県立広島大学の次期中期目標の方向性について（案）
- 資料3 県立広島大学に求められる地域企業の人材ニーズ（H26, 28調査）
- 資料4 公立大学法人県立広島大学業務方法書の変更について
- 資料5 地方独立行政法人法改正による公立大学法人評価委員会の役割の主な変更点について
- 資料6 県立広島大学アニュアルレポート2017 ※2016（平成28）年度分実績